

第二十七回近畿外科集談會漫語

五柳先生

△近畿外科集談會も二十七回を重ねだん／＼盛大になるのは悦ばしい事である。此會には會長も評議員も何んにも無いたゞ其時限りの世話人其時限りの會員で會が濟んだ後に残るものは演説討論の内容だけで、其他のものは毎會すぐに消えて了ふ。たゞ正に「外科」といふもの、興味の爲に同好者が寄り集つて一日談するので、氣のつまる様な仕掛けが一つも無いのは此會の特長であらふ。

△日本にある凡ての學會もいつそのこと全部集談會式に變更した方が宜しくはあるまいか。財團法人とやらでなくとも、いかめしい會長や評議員や名譽會員などいふものを揃へなくとも、學會は立派に成立して行くのである。其の實例は近畿外科集談會でわかる。また「學會」の事業として優秀な業績に對して學會から賞金を出すなども、其實はその學者やその學術を馬鹿にした話である。「眞の學術」といふものはその様な筈のものでは無い。それ以外に此の學會法人等は果して何事を成し遂げたか。

△この様なことを述べて見た所で、「學者」と呼ばれるもの大多數が會長だの評議員だの座長だことの名譽會員だことの賞金だことの。その様なものを一生一代と考へて居る間はせんなき次第である。併し吾等後進者は世俗を超越し、たゞ正に眞個の學術の爲に精進しいつも其心を持つて學會にも臨むべきである。そして機會を見て「學術」以外の世俗的事項を全部廢棄することを心掛けねばならぬ。

△さて演題の順を逐ひ後世にはいざ知らず當座自分の頭の中に残つて居るものに就て、聊か駄評を試みよふ。妄評多罪は前以て陳謝致し置く次第なり。

六、人型結核菌ニ關スル喰菌作用

富士原誠一

(イムペデン現象 其ノ一)

山田 正男

此處に於ても明白に烏瀉教授の「イムペデン」現象が立證されて居るのである。而も全く無關係で同じ「アルバイト」を行ふて居る林茂君の追加に於ても、其の結果は一致して居た。當然の事とは言へ、眞理は何處にあつても永久に眞理である。併し日本に於て研究者多しと雖、此の「イムペデン」現象を十分に追試した人の無いのは一體どういふものであるか。本邦學界の恥であらふと思ふ。

## 七、家兔及び犬ノ腦背髓液採取ノ一新法

### (前頭穿刺法)

大橋兵次郎

後頭穿刺法に對して考へられたものである。Foramen opticum から注射針を穿刺し Sella turcica に出して液を採取し様と云ふのである。演者の創案になる術式として敬意を表するが、此を人間に應用するにはまだくらししい。努力一番を要する。

## 八、各種藥液ニ依ル腦洗滌ノ實驗的批判

清水源一郎

前頭穿刺法と後頭穿刺法とを行ひ、兩者の間で洗滌液の貫流を行ふのである。自分は人間に於て後頭穿刺法の安全に行はれ得る事をみて居る。而も前者も人間に於て絶對安全に行はれ得るならば、今後腦膜炎等の療法に一つの方法が増加した譯である。此の意味で、此の演説は面白いものであつた。

### 一、「スポーツ」ニヨル脛骨結節ノ内骨折

貴志周一郎

曾つて本誌原著欄で、赤藤學士が發表されたオスグットシユラツテル氏病因外傷説に一致する適例である。

### 一八、「コクテゲン」軟膏繃帶ノ豫防治療効果

中川 三郎

局所免疫の立場から「コクテゲン」を軟膏の形となして、

發病局所に貼布しその豫防治療的價値を發表したものである。「ワクチン」の軟膏と「コクテゲン」の軟膏を用ゐて兩者の効果を比較し、後者の遙に前者に優つて居ることを、實驗動物(海狼)を示して提唱されたが、免疫元が角膜や粘膜ならばいざ知らず、表皮からも吸収されて先づ局所免疫を發生せしめ得との實證は注目に値すると思ふ。近年に於ける局所免疫の主張と研究とは殆んど同時代相互無關係に本邦にては鳥瀉教授佛國にてはベスレドカ教授から發程して居る。此の兩教授の指導を受けた中川氏から此の如き發表のあるのは當然と思はれた。

### 一九、悪性腫瘍ノ「レントゲン」深部療法ニ就テ

塚原 仲光

手術不可能の悪性腫瘍が、「レ」線の深部療法で治癒したと云ふ多數の例が示された。「レ」線發生器の改良は遂に現今の偉大さに迄達した譯であるが、尙ほ此の方面の改良餘地は充分にあると思ふ。之れにつけても醫學者であり、物理學者である人の出現が必要である。機械から使はれる人でなく機械を造り出す醫學者がなければならぬのである。

手術不可能の悪性腫瘍が「レ」線で治るならば手術可能の悪性腫瘍は更に良く「レ」線で治る筈である。然るに歐米でも日本でも手術不可能の悪性腫瘍を主として「レ」線の對象

物として取扱ふのは抑も外科醫の怠慢であるであらふか。それは果して何事を意味するものであるか。外科醫の猛省を要する點である。

## 二一、心臟手術ノ一補助操作ニ就テ 角田 博

動物實驗の報告であつたが *Yam gava sup.* 及び *Yam gava inf.* を「クレンメ」で止め全身の血行を一時停止せしめて心臟内に外科的侵襲を加へる時は動物は決して死ぬ事が無かつた、と報告された。心臟外科は今後の面白い題目であらうが、平壓開胸術と相待つて初めて其の發達を期し得べく、兩者の研究を希望する次第である。

## 二二、稀有ナル胸腔内異物ノ一例 宮崎 松記

自殺の目的で用ゐた剃刀が氣管から左胸腔へ落ち込んだのを平壓の下で胸腔から取り出し、而も四十五時間の長い間開放性氣胸の下にあつた例である。平壓開胸術の絶對安全である事は既に京大外科では確定した事實であるが、もしも此の手術の際に異壓装置などを使用したならば多分その剃刀を取り出すのに餘程難儀した事と思ふ。平壓開胸術は日本外科の産物の一つとして今後何處でもごし／＼遂行されるであらふ。國産奨勵は決して商品ばかりと考へてはならぬ。

## 二三、本邦婦人結腸ノ形態的研究 本田 稔

第一報として三百例の本邦婦人、字狀結腸の形態をレン

トゲンの検査に依つた研究發表である。自分は斯る多數の例に捧げられた大なる努力に敬意を表するが少しく不審の點を持つのである。演者は之の形態に十三種の型を區別した。而も其の間の差は僅かなる廻轉度、屈曲度等に依るのである。元來が生體内の、その上 *Mucosa* なる器管である、字狀結腸を只一回の「レ」線検査で十三に別けた事は無理でなかつたか。自分は同一人に數回の検査をやつてみなければ之の結果は不明だと思ふ。即ち或る時は I 型でその次には V 型になる事はあり得ると思ふ。況んや女性にはその位置形態に可成りの特異性を有する内生殖器があるのだから、益々複雑になつて來やしないであらうか。併し先づ十三種の型があるとして、さてそれが醫の學及び醫の術の上に如何なる意義を持つのであるかを知りたいものである。

## 二八、胃切斷端縫合閉鎖法ニ就テ 大澤 達

胃切斷端を閉鎖するに當つて先づ粘膜層だけを縫合し、其の上に漿液膜筋層斷端の縫合を行ふと云ふのである。これは片岡氏の發表した十二指腸斷端閉鎖法を胃斷端に適用したものである。一寸考へると不安な縫合の様であるが確實に遂行出來たとあるから面白い。此の方法に依れば演者の述べるが如く、從來の方法に於ての様な餘分の「斷端部」の巻き込みを必要とする事が無く、従つて胃癌切除等に際して、思ひ切つて切除し胃殘部が少くなつても、其の

閉鎖に困る事が無い譯だ。此の方法を行ひ、その上片岡氏十二指腸斷端閉鎖法、更に昭和三年四月の日本外科學會で青柳學士が追加し、また前回の本集談會で演者の述べられた胃腸吻合法を併用する時は、胃癌の根治的療法を行ひ得る範圍が廣められたと言つて良いのである。蓋し胃腸外科への一貢獻と言はなければなるまい。せめて四五百例位此の手術例を集めてほしいものである。

二九、膿石ノ觀血手術方法ニ就テ 荒木 千里

「シュツツタンポナーデ」を行ひ、其に依る癒着等の結果から惹起される各種の不快症狀を防ぐ目的で「シュツツタンポナーデ」を廢し、大網膜を利用してそれに代へ且つ同時にそれに依りて手術野を全く腹腔外たらしめる一舉兩得の方法である。演者は模型を用ゐて鮮かに説明された。腹腔内に在つて偉大なる防禦力を有する大網膜を用ゐての「タンボン」代用と隔壁造成との系統的研究は誠に妙案で、まだ内外文献に記載の無い方法である。一寸した手術方法でも一度の演説を聞いただけではなかく腑に落ちかぬるものと見えるが、此の演者は討論者に對し、自己の論點を極度に明にした。その御蔭でそれを傍聽してゐる聽衆にも此の手術の目的方法がよく判明したらしい。これも少くとも四五百例位集めてほしいものである。それには一人の力ではいかぬ。また十年も二十年も努力を續けねばならぬ。

後進者は十分覺悟せねばなるまい。

三九、小腸結核ニ於ケル腸切除術ニ就テ

岩永 仁雄

結核竈は總て切除し、殘餘健全部を吻合すべし、と説かれた。病竈の二、三の間はそれもよいであるが、其の數が多數に登つた時は如何であらうか。考へてみなければなるまいと思ふ。併し原發性の病竈は徹底的に切除するといふ方針は何に限らず實行するのが醫師の義務であらふ。

△此の他に特別講演として村上陸軍軍醫學校教官の「濟南ニ於ケル戰傷患者ニ就テ」及び三宅博士の「胃癌切除成績ニ就テ」があつた。

△身戦線にありながら、斯る材料を多數に集め、それをよく整頓して系統づけられた努力に敬意を表するが、自分は此處に於ても戦争の慘めさを思ひ、軍醫のうちから非戰論者が出なければ嘘であると思つた。併し奸邪の徒が詭計を廻らして間斷無く他を傷害するに比すればむしろ戦争の方が正々堂々としてゐる様にも思ふ。

△三宅名譽教授の「胃癌手術ノ成績ニ就テ」の演説に向つては自分等は各種の手術方式の利害得失とか或は教授獨創の手術式と其の成績とか何かな學術的の發表を期待して居つたが、そうでもなかつたので惜しい事であつた。

△本年の學會に於て奇抜な發表をしても、それは單にその場限りで、明年はまた別の方面に走り前の發表を知らぬ様な顔をして居る人もある。これは實に無責任の至りであるまた學術研究は二年や三年で全部實用になるとも限られて居らぬものである。從て自分は『根強い研究者』の出来ることを希望するものである。

△此の意味で自分は此の漫語に引き出した演者諸君の健康を祈り、一回限りでその「テーマ」を棄てずに年々歳々同一の「テーマ」を奥深く研究して行くことを希望する次第である。學術研究に向つては二十年や三十年、時には五十年でも百年でもそれはたゞ一日の如きものであらねばならぬ。漫語多罪。(完)

京大 京大外科雜誌抄讀會

十月二十九日(月) 午後七時 於樂友會館

演題

- 一、手術的ニ處理セル頑固ナル蹠骨痛ノ一例
- 二、肛門瘻瘻症ト慢性限局性濕疹トノ外科的療法
- 三、高度ニ出血セル胃潰瘍患者ノ手術ニ就イテ
- 四、山東住民ニ於ケル膀胱結石ノ症例
- 五、乳兒手術後ノ過高熱及ビソノ原因
- 六、急性膝臟炎ノ「レントゲン」診斷
- 七、輸尿管ノ研究

石原君 矢田君 岸君 黃君 岡君 田君 河野君

- 八、慢性胃潰瘍合併症トソノ處置
- 九、腸管膜纖維腫ニ就イテ
- 一〇、實驗並ニ臨床上ヨリ見タル癩癰問題
- 一一、慢性纖維的囊胞性腹膜炎ニ就イテ
- 一二、吐糞症死因ニ關スル問題ノ實驗的研究
- 一三、ノイミユフー、オラトール氏ノ「ガンゲソオン」手術式

- 一四、頸部手術ニ於ケル頸動脈反射ノ意義
- 一五、殺菌劑ノ組織損傷ニ關スル實驗的研究
- 一六、臍腫瘍ニ對スル「レ」線治療

十一月二十九日(月) 午後七時

演題

- 一、廻腸部ノ蜂窩織炎
- 二、移動性十二指腸ニ就テ
- 三、胃及十二指腸ニ於ケル急性穿孔
- 四、腦震盪症ニ就テ
- 五、腰椎薦骨間「オステオヒモンドロパティ」
- 六、膽囊粘膜炎燒灼法ニ就テ
- 七、尿道下裂手術的療法
- 八、急性膝臟炎ニ就テ
- 九、鼠蹊ヘルニア豫後ニ關スル考察

十二月二十日(月) 午後七時

演題

- 一、胃及十二指腸潰瘍ノ外科的處置

武野君 中野君 舟山君 板根君 八田君 石川君 上村君 佐藤君 藤浪君 岸君 藤浪君 中野君 淺野君 高橋君 伊藤君 山根君 神部君 關口君 茅講師 矢田君

- 二、肛門括約筋緊張度ニ就テ
- 三、脾臟囊腫ニ就テ
- 四、腎ノ巨大纖維腫ニ就テ
- 五、盲腸炎ト膽管疾患トノ關係
- 六、肺ノ異物性膿瘍
- 七、慢性遺傳性水腫
- 八、「レントゲン」像ニ依ル尿道狹窄及破裂ノ證明
- 九、持發性血尿ニ就テ

淺井君  
麻生君  
內田君  
福間君  
赤木君  
新谷君  
吉富君  
坂田君

一〇、淋巴性斜頸  
一一、腹腔内ニ於ケル異物ノ運命  
一二、主トシテ内科的處置ヲ施シタル膽石病患者二百八例ノ後觀察ニ就テ  
一三、切除シ難キ胃及十二指腸潰瘍ニ於ケル姑息的胃切除術ノ本態及効果  
一四、胃及肺結核治療ニ於ケル刺戟原トシテノ乾燥食

嘉海君  
中村君  
今津君  
廣瀬君  
近藤君

## 會 報

### 入 會 者

福岡縣八幡市製鐵所病院  
東京市外大崎町下大崎二五八  
京都帝國大學醫學部外科教室  
同  
轉  
居  
朝鮮京城府授恩洞九二

狩野直幸  
佐藤銀一  
濱良三  
田中眞一  
文穆主

濱松衛戍病院  
香川縣善通寺衛戍病院  
東京市四谷區慶應病院整形外科  
東京市小石川區武島町一〇  
大阪市住吉區天王寺町烏湯病院  
鞍山滿鐵醫院

三宅幹夫  
脇田豐  
前田和二郎  
小林大乗  
波多腰正雄  
松島茂